

[平成21年8月7日 (金)]

# 美しい森林づくりニュース 〈NO. 144〉

～ 伝えたい木の文化、残したい美しい森 ～



発信元：林野庁 研究・保全課 森林環境保全班 企画調整係 山口  
Tel：03-3502-8111 (内線6216) 03-3501-3845 (直通) Fax：03-3502-2887

ご意見、ご質問は → <https://www.contact.maff.go.jp/rinya/form/5dd6.html>

バックナンバーは → <http://www.rinya.maff.go.jp/seisaku/utsukushiimoridukuri/news.html>

## ◎ ～広めよう！森林づくりの大切さの輪を全国に!!～

－ 『学校林・遊々の森』全国子どもサミットin四国』を開催 －

「学校林」や「遊々の森」は、子どもたちが自らの行動で森林や林業を学び体験する活動が行われる学習・体験活動の場であり、「学校林」は全国約3,000の小・中・高校において設置されていますが、このうち実際に活動を行っている学校は3割程度に留まっているのが現状です。

この活動を全国の学校に広げていくため、8月2日(日)～3日(月)に高知県香美市で、今回で3回目となる『学校林・遊々の森』全国子どもサミット』を開催しました。

本年度のサミットは、林野庁四国森林管理局や財団法人オイスカ等からなる実行委員会の主催により開催され、学校林や遊々の森を活用した学習・体験活動に積極的に取り組んでいる四国地域の小学校9校、兵庫県、山形県の小学校各1校の児童や先生及び一般参加者など総勢約150名が参加しました。

### (児童による森林学習・体験活動に関する発表)

発表会では、各校の児童が日頃の活動内容やその成果などについて、発表しました。

香川県高松市立屋島東小学校では、「森に親しむ」「森の恵みを生活に生かす」「森林のはたらきを学ぶ」「森林を育てる」を森林学習の視点として活動を展開しており、森に親しむ取り組みとして行っている秘密基地づくりや、森林を育てる取り組みとして行っている植樹活動などについて発表を行いました。

また、徳島県吉野川市立川田小学校は、学校林における森林体験学習や「川田小学校版環境ISO」に沿った環境問題への取り組みなどについて発表を行いました。



子どもたちによる発表

## (先生方による森林環境教育の推進に向けた意見交換会)

各校の先生が、現在抱えている学校林や遊々の森における活動の課題と今後の対応策などを述べた後、コーディネーターの京都教育大学教授山下宏文氏による進行で意見交換を行いました。

その中でも特に、「アクセス」(活動場所が遠い)や「授業時間の確保」(森林環境教育のための授業時間の確保が困難)など共通の課題があることがわかり、各校の対応事例などの情報交換を行いました。



先生方による意見交換会

## (森林体験学習)

1日目のプログラム「竹で作った器でご飯を食べよう!」では、子どもたちが悪戦苦闘しながら竹を切り抜き、その中に米と水を入れたご飯の炊き方を体験しました。

2日目のプログラムでは、子どもたちは3班に分かれて各体験プログラムに参加しました。「遊びを通して森林を知ろう!」では、フォレストウォークを通して身近な自然にふれあったり、野外ゲームを通して生態系のつながり及びそのつながりの大切さや樹木が吸収する二酸化炭素の量の測定方法を学びました。「木にふれて創作してみよう!」では、木工クラフトでオリジナルの名札などを製作し、木が身近なものであることや様々なものが作れることを学びました。また、「紙すき体験をしよう!」では、間伐材などを活用した手すきの和紙作りを体験しました。



輪切りの竹で炊飯体験



樹木が吸収する二酸化炭素の量の測定方法を学んでいる模様

各校の児童や先生は、このサミットで様々な情報交換や交流を行い、夏休みの貴重な経験になったことと思います。なお、この子どもサミットの結果は、今後報告書にまとめ、学校林や遊々の森を持つ全国の小学校に送付する予定です。



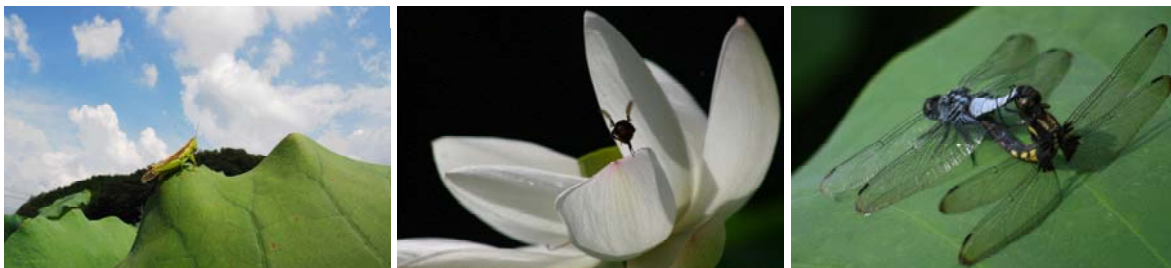
参加したみんなで記念撮影

◎ 平成21年度「グループ対抗里山デジカメ選手権」作品募集!!  
— 「身近な森林（もり）の再発見」をテーマに —

「グループ対抗里山デジカメ選手権」は、近年、手軽に多様な表現ができるアイテムとなってきたデジタルカメラを利用し、里山の現状や役割を多くの人に伝えることを目的として、林野庁近畿中国森林管理局箕面森林環境保全ふれあいセンター主催、滋賀県立琵琶湖博物館及び財団法人水と緑の惑星保全機構・里地ネットワークの共催により開かれており、今年で3回目になります。

今年度のテーマは「身近な森林の再発見」で、学校、森林・林業活動グループ、企業、家族等（2～3人のグループ）で3枚1組を1作品として、里山に代表される身近な森林の中に暮らす動植物や森林づくり活動、森林環境教育活動などの一瞬を切り取った作品を募集しています。（応募締切：平成21年9月30日（水）当日消印有効）

応募作品は、第一次審査で30グループに絞り込まれ、11月7日（土）に滋賀県立琵琶湖博物館で行われる公開審査に進むことになります。公開審査では、各グループの代表が審査員の今森光彦氏（写真家）、只木良也氏（農学博士）、青山佳世氏（フリーアナウンサー）及び写真の映像の前で、日頃の活動や作品の説明、思いなどをスピーチしていただきます。審査に当たっては、単に映像の美しさに留まらず作品に込められたメッセージ性も重視され、林野庁長官賞1点、滋賀県琵琶湖博物館長賞1点、近畿中国森林管理局長賞7点を決定します。



【学校部門】平成20年度優秀賞（近畿中国森林管理局長賞）「小さな宝物」 ※最優秀賞は、小誌NO. 107号に掲載

\* 送り先&問い合わせ先 \*

林野庁 近畿中国森林管理局 箕面森林環境保全ふれあいセンター

〒602-8054

京都市上京区西洞院通り下長者町下ル丁子風呂町102 京都農林水産総合庁舎内

TEL 075-414-9049 FAX 075-414-9029

URL :<http://www.kinki.kokuyurin.go.jp/fureai> e-mail : [kc\\_fureai@rinya.maff.go.jp](mailto:kc_fureai@rinya.maff.go.jp)



#### ◎ 第4回建設トップランナーフォーラムが開催される

7月23、24日の両日、建築会館（東京都港区）において、建設トップランナーフォーラムが開催されました。これは、米田雅子慶應義塾大学教授の呼びかけによりはじまった地域建設業の複業化を支援する活動です。

この2日間で、全国各地で新事業や地域おこしに取り組んでいる建設経営者の事例発表（22事例）やアグリビジネス、地域再生、環境／森林再生の分野別に取り組んでいる方々と支援者によるミニフォーラムが開催されました。

「林建共働による森林再生」をテーマとしたミニフォーラムでは、ひだ林業建設業森づくり協議会長瀬雅彦幹事、日本プロジェクト産業協議会高藪裕三専務理事、中部森林開発研究会梅村正裕代表、米田教授、林野庁沼田森林整備部長、国土交通省平井事業総括調整官の6名がパネラーとなり、パネラーそれぞれから林野庁と国土交通省の連携をはじめとする取組の状況等の説明、林建共働の背景や進める上での課題と対応についてディスカッションが行われました。

※ 「美しい森林づくりニュース」のメールマガジンの配信を始めています。

登録はこちらから → <http://www.rinya.maff.go.jp/seisaku/utsukushiimoridukuri/mail.html>